

令和6年3月31日

関係の皆様

砧の学び舎 世田谷区立明正小学校  
校長 栗林 大輔

令和5年度の改善方策について実行した改善結果及び令和6年度に向けた改善方策

日頃より本校の教育活動に、ご理解、ご協力いただき、ありがとうございます。

令和5年度の改善方策について実行した改善結果及び令和6年度に向けた改善方策について、下記のとおりご報告します。

## 記

### 1 令和5年度の改善方策について実行した改善結果

【明正小学校関係者評価結果】及び<改善結果・改善方策>は以下のとおりです。

#### 【明正小学校関係者評価結果】

##### ◎総評

令和5年度は、5月にコロナウィルス感染症が5類となり、コロナ以前の学校の日常がほぼ戻ってきた年度と考えられる。そして今年度は、明正小学校の創立70周年の節目の年で、それに伴う周年行事も行われた。学校評価アンケートの保護者向け設問「学校行事は子どもにとって楽しい」では、プラス評価（「とても思う」と「思う」の合計）が97.1%、同じく保護者向け設問「本校の学校生活は子どもにとって楽しい」では、プラス評価91.7%といずれも高い数値を示している。先生方の自己点検表の項目「予定されている行事等の教育課程が適切に実施されている」では、プラス評価が100%、「学校行事は時間・内容等が適切である」では、プラス評価が87%となっている。これらの結果から、今年度は例年より行事の多い年度であったが、それらの行事は円滑かつ着実に実施されたものと評価する。

先生方の自己点検表の項目「問題意識や悩みを気軽に話し合える職場になっている」では、プラス評価が100%、「管理職の方針・指示が浸透し、教職員が課題解決にあたっている」では、プラス評価97%といずれも高い数値を示している。また、保護者向け設問「校長をはじめ教職員は協力して教育活動に取り組んでいる」のプラス評価が92.2%となっている。自己評価報告書の中でも、項目ごとに活発に今年度の課題があげられ、次年度に向けての改善策が検討されていた。また当委員会のヒアリングにおいても、短時間にもかかわらず先生方から多様な意見が出されて有意義なものとなった。

これらの結果から、前年度の報告書においても「全般的に教職員が相互に協力し合える信頼関係が構築され、意欲的かつ円滑な教育活動が行えている」と評価したが、今年度においてもその状態が維持され、管理職・教職員がチーム明正として活動できたと思われる。校内研究、教科担任制の導入、キャリアパスポートの活用等でも一定の成果があげられたことを評価する。

創立70周年の節目の1年間として、年度当初の70周年キャラクター「ふじっち」のお披露目児童集会から、運動会、タイムカプセル開封式、全校児童が参加した明正小まつり、記念式典、学習発表会、バルーンリリース、タイムカプセルの封入等、高学年を中心に児童が参画し、保護者の方や地域の方のご協力をいただきながら記念の取組を進めることができました。様々な取組を通して地域とともに子どもを育てる学校として認識を新たにするとともに、これからの結束を高めることができました。大人が押し付けた行事を児童にやらせるのではなく、児童が意見を出し合い、話し合っ折り合いをつけ、実現する過程を重視することで、学校行事や学校生活に対する肯定的な評価を得ることができたと考えられます。児童が「主役」の取組を充実させていくためには、教職員同士の情報交換や検討が不可欠です。一人一人の教職員が「子どものために」「子どもを一番に」と考

え、労を惜しまず取り組んできた成果と捉えています。それぞれの教職員がもつ個性や得意分野、専門性を生かし、チームとしての連携を深めることが児童理解や教育活動の充実につながります。教職員同士の情報交換や検討には、打合せ等の時間が必要ですが、会議の精選や効率化を図り、過度の負担とならないよう注意してまいります。一層、教職員の働き方改革を進め、教職員の時間的な余裕を生むことが魅力的な教育活動につながると認識し、改善を図ってまいります。

#### 【明正小学校関係者評価結果】

当委員会では、この数年にわたり学校包括支援員、スクールサポートスタッフ、学校生活サポーター、教科支援員などの支援スタッフの有効活用の推進を要望してきたが、今年度の自己評価報告書や先生方へのヒアリングによっても、支援スタッフの活用が進んできており、先生方との連携も円滑になりつつある状況が推察された、具体的には「スクールサポートスタッフが、印刷、カット、ラミネート等の事務作業、学校ホームページの更新などの支援をしてくれて助かった」、「包括支援員や生活サポーターによる授業時間以外のすきま時間の見守りが児童トラブルを未然に防ぐことになり助かった」、「管理職の巡回による児童への声掛けがありがたかった」、「先生方がスクールカウンセラーやすまいるルームとも連携が取れていて良かった」、「家庭科にもサポートが入るようになった」、「教科支援員とも連携が密に取れて教材研究にも役立つ」等々、様々な声を聞くことができた。こういったことも、管理職・教職員が協力する雰囲気の中で生まれた好循環と言えよう。来年度に向け、このような支援体制を引き続き推進していただきたい。また、図工についても工作の際にサポート要員が欲しいとの声があったことを付記させていただきたい。

保護者向けアンケートで、学校からのお便りが紙面配付からすぐーるによる配信に変わったことで、情報を受け取りやすくなったかどうか聞いてみたところ、「受け取りやすくなった」と回答した保護者が81.4%であった。また、保護者向け設問「本校はホームページやメールなどで保護者に情報を提供している」でのプラス評価は90.3%である。IT機器の活用は、学校と保護者間の情報流通の方法として充分受け入れられてきていると考える。一方、保護者の学校とのかかわり方について、例えばPTA活動のスリム化等により、保護者同士が直接会って話をする機会や、学校に来校して顔を合わせる機会などは減少傾向にあると考えられる。このような傾向は世の中の必然的な流れでもあり、多数の保護者の協力を必要とするような学校行事については今後もその在り方について検討を継続していくことが必要と考えられるが、その中で明正小学校創立70周年の記念行事、明正小まつりは学校と保護者と地域が連携・協力して行われた有意義な行事であったと評価する。

#### <改善結果・改善方策>

スクールサポートスタッフ等、支援スタッフの活用をより計画的に、より効率的にすることで、教職員の負担軽減を図り、一人一人の児童に向き合う時間を増やすことにつながっていると考えられます。一方で、さらに改善が必要な視点も挙げられており、次年度に向けて限られた人員をより効果的な活用を図る必要があります。経営推進会議や企画会、学年主任会を通して、先を見通し計画性のある活用を進めてまいります。学校からの通知をすぐーる配信は、明正小が進めるSDG'sの視点からも効果のあるものと捉えています。学年だよりを学校だよりに統合したことも合わせて、保護者の方のご理解、ご協力に感謝いたします。

コロナ禍を経て保護者の方同士の話をする機会や顔を合わせる機会が減少傾向にあることは、他の学校でも指摘をされているところです。一方で、学校支援コーディネーターによるワークショップは、昨年度以上に教室を開催していただき、参加人数も増加しました。単純に、コロナ禍前に戻すのではなく、コロナ禍を踏まえた新しい取組を探っていく必要があります。学校運営委員会や学校支援コーディネーター、PTA役員等の方々とより「子どものために」を視点に建設的な検討を進め、充実を図りたいと考えます。

【明正小学校関係者評価結果】

◎回収率について

保護者向け調査シート回収率 69%（前年度 55%）、児童向け調査シート回収率 96%（前年度 94%）であった。前年度から保護者アンケートは Web での回答に変更となり、学校に「子どもが複数在校している場合には子ども 1 人について 1 件の回答」を周知していただいた効果もあり、保護者向けアンケートの回収率は今年度 14 ポイント上昇した。ただし、保護者向けアンケートが紙媒体で実施されていた頃は毎年ほぼ 80%以上の回収率であり（過去最高は 89.6%）、子どもを通じた手渡しによる保護者アンケートの方が回収率は高くなるのは当然としても、今後も保護者アンケートの回収率向上に向けた働きかけを継続していただきたい。

<改善結果・改善方策>

昨年度に比べ、保護者向け調査シートの回収率が上昇したことは、すぐ一時的な等での複数回の依頼のみならず、保護者の方のご理解、ご協力によるものと感謝いたします。しかし、依然として紙媒体時の回収率を下回っています。地域とともに子どもを育てる学校として、教育活動の充実のために、保護者アンケートによるご意見の活用は不可欠です。他校や教育委員会の取組を参考に回収率の上昇に努めてまいります。

【明正小学校関係者評価結果】

◎重点目標についての評価結果

① 「自分の個性を理解し、自己実現を図ろうとする『明るい子ども』」を育てるために、探究的な学びを通して課題を把握し、解決の見通しを持って取り組む力を養う。

今年度の学習面に関するアンケートの児童向け設問で、「わたしは自分の考えを書いたり発表したりすることが楽しい」でのプラス評価は 51.7%（前年度 60.5%）と 8.8 ポイント低下しており、半数近い児童が否定的な回答をしている。当委員会が、先生方へのヒアリングで、発言が苦手な児童に対する工夫について聞いたところ、「いろいろな形で意見を述べる場を設定している」とのことであった。例えば、小グループの中で発言する、隣席の子と話し合う、タブレットのロイロノートに書き込むなど、従来の「挙手をして皆の前で発言する」だけでなく、「自分の意見を伝える」という機会を幅広く設けるように努めているとのことであった。一方、児童向けの設問「わたしは友だちの考えを聞いたり、話しあったりすることが楽しい」でのプラス評価は 78.5%（前年度 81.5%）となっており、意見を聴く側の姿勢は醸成されてきていると思われる。今後も引き続き児童の「考えを伝える力」を指導してもらいたい。

今年度は、校内研究において特別活動を取り上げ、「互いを認め合い、よりよい学級・学校を創る児童の育成」をテーマとし、学級会での話合いの充実を中心に、話合いの進め方や一人一人の思いや願いを取り上げる手だてを検討し、実践を進めてきました。はじめは、自分の考えを一方向的に言ったり、他の考えを受け入れられない様子が見られましたが、次第に、他者の意見を聞いて、折り合いを付けたり、いろいろな意見を統合したりしてよりよい方策を探っていく様子が見られるようになりました。学級会で決めたことを試行錯誤しながらお楽しみ会等、学級での取組を通して達成感や集団への帰属意識が育っており、さらに、学級で全員が気持ちよく過ごすための提案や学校全体をよりよくしていくという意欲が育ちつつあります。また、学級会での話合いでは、決まった特定の答えがあるのではなく、自分の考えを表しやすいことから、これまで、意見を発表しなかった子も発言する機会が増えています。教員にも学級会での取組を通して教科等でも発言が増えたり、ハンドサイン等で考えを表したりする子どもが増えたという実感があります。「考えを書いたり発表したりすることが『楽しい』」と子どもたちが感じるためには、自分の意見を他者が受け入れた、自分の意見で事が成し遂げられたといった達成感をもつことが重要と考えられます。子どもたちが臆することなく考えを発表できる環境や自

分事として捉えられる題材、成し遂げたという達成感を重視し、取組を進めてまいります。また、小グループやペアでの話し合いやロイロノート等を活用した記述による発表、共有も有効と考えられます。子どもたちが自分の意見をもち、それを伝え、共有し、行動につなげることで、他者と協働して成し遂げようとする力を養っていきたいと考えます。

【明正小学校関係者評価結果】

◎重点目標についての評価結果

② 「学校生活・社会生活を創る『正しい子ども』」を育てるために、挨拶の励行と規範意識・情報モラルの醸成を通して豊かな人間関係を養うことを重視する。

児童向け設問「わたしは自分からすすんであいさつをしている」でのプラス評価は82.6%（前年度86.0%）である。学校が継続してあいさつ運動に取り組んでいることで、80%以上の数値を維持していると思われる。この取り組みは今後も継続していただきたい。

自己評価報告書の中で、遅刻児童が多く、その際、保護者同伴のルールが守られていないことが指摘されている。これは保護者への一層の周知が必要なので、今後も重ねて周知徹底を図っていただきたい。児童配付のタブレットが有効に利用されつつあるが、使い方のルールをさらに整備して適正な利用が図られるように指導していただきたい。

<改善結果・改善方策>

児童会活動を通して、児童からの呼びかけにより学級毎や縦割り班毎の挨拶運動に継続的に取り組みました。教師による指導だけではなく、児童からの発案により取組を進められたことで、自分事として捉え、意識を高めることにつながったと考えられます。特に、高学年の児童からも挨拶が多く聞かれるようになりました。今後も児童発の取組を進めてまいります。また、登下校時のみならず、校内においても挨拶が広がるよう取組を進めます。児童の遅刻については、保健指導等を通して、規則正しい生活の励行を啓発するとともに、各児童の状況を把握し、保護者とも連携し、支援を進めてまいります。また、児童の安全確保の視点から、遅刻時には保護者の同伴をお願いしているところです。保護者会等を通して、改めて周知し、依頼してまいります。一人1台のタブレット型パソコンは、教材の提示や調べ学習等での資料検索のみならず、児童の意見を集めたり、共有したりする際や、教師による評価や価値付け、励ましにも活用が進みました。タブレット型パソコンを「文房具の一つ」として捉え、効果的な活用をさらに目指します。一方で、児童がタブレット型パソコンを使う能力が高まることで、犯罪に巻き込まれたり、加害者になってしまったりする危険性があります。また、長時間の使用による健康への影響や依存の心配も高まります。タブレット型パソコンは学習に活用することを原則とした使用ルールを教職員で再確認し、どの教員でも同じように指導できるようにするとともに、保護者と連携し、適切な使用ができるよう指導・支援してまいります。

### 【明正小学校関係者評価結果】

#### ◎重点目標についての評価結果

③「力を合わせて達成する『たくましい子ども』」を育てるために、多様な他者のよさを理解し、協働して解決しようとする態度を養うとともに、心身の健康づくりを進める。

明正の児童の体力は、運動をよくする子と運動をあまりしない子の差があると言われ、東京都の体力調査でも平均を下回る項目がある。アンケートの児童向け設問「わたしは体育や休み時間にすすんで運動している」でのプラス評価 71.1%（前年度 68.7%）と前年度より 2.4 ポイント上昇している。同じく保護者向け設問「本校では子どもが体を動かす時間が足りている」のプラス評価 60.0%（前年度 57.0%）とやはり前年度より 3 ポイント上昇している。

今年度の児童向け設問「私は放課後、友だちと遊ぶ時間がある」をアンケート項目に加えたところ、この設問に対する回答のプラス評価が 52.5%となり、半数近くの 5,6 年生が放課後に友だちと遊べていない現状であることがわかった。学校で、友だちと体育の時間や休み時間に体を動かす事が一層求められていると思われる。教科担任制に体育も含まれているとのことなので、より一層授業の充実を図り、力を合わせて達成する「たくましい子ども」を増やしていただきたい。

#### <改善結果・改善方策>

児童向け設問では「すすんで運動している」と肯定的な回答している児童は増えていますが、体力テストでは、東京都平均を下回る種目もあり、体力づくりを十分に進めているとはいえない実態があります。「体力づくり月間」の取組を通じた意欲の向上やOJT研修を通じた体育授業の改善をさらに進めていきます。休み時間には、多くの児童が鬼ごっこやドッジボール等、友達と楽しみ、体を動かしています。一方で、ボールがぶつかったり、違う遊びの児童とぶつかったりという怪我也起きています。校庭、体育館、屋上を使用する学年を限定し、ローテーションを組んだり、ボール使用の場所を制限したりして怪我の防止に取り組んでいます。児童はルールを守るとともに、特に、下学年に対していたわる気持ちをもって過ごす様子が見られます。限られた環境を有効に活用し、児童が楽しみながら体を動かすとともに、友達との関わりが増やせるよう働きかけてまいります。

### 【明正小学校関係者評価結果】

#### 追記

先生方へのヒアリングで、「施設利用（体育館の外部利用等）と学校行事の事前準備がバッティングすることがあり、行事準備に支障が生じることがあるので配慮していただきたい」との声があり、また「このことをどこに話に行ったらよいかわからない」という声もあったので、追記させていただきました。

#### <改善結果・改善方策>

学校行事等においては、通常の施設利用以外での使用をする場合があります。一方で、外部団体による活動を通して児童が運動を楽しんだり、体力の向上に取り組んだりしています。体育館等の施設利用をできるだけ長期的に把握し、学校行事が円滑に進めるようにするとともに、外部団体の活動の制限が最小限になるよう努めてまいります。

## 2 令和6年度に向けた改善方策

教育目標に基づき、「明るい子ども」として、学ぶ意欲を高め、自らすすんで学習課題をもち、主体的に解決していこうとする能力や態度を育てます。「正しい子ども」として、思いやりや感謝の心をもって、すすんでよりよい人間関係を築く能力や態度を育てます。「たくましい子ども」として、健やかな身体を目指し、体力の向上や健康・安全に取り組む能力や態度を育てます。

そのための方策として、「『キャリア・未来デザイン教育』の実現」に向けて、自分の

よさを理解し、自分の将来を考え、予測困難なこれからの社会を担うための課題解決能力やコミュニケーション力、チャレンジ精神を養います。問題意識や追究意欲を高める教材から児童が自分事として捉え、課題を見出し、解決への計画・方法を立て、他者と協働し、自己の学びを振り返り次の学びへつなげる探究的な学びのサイクルを確立し、生涯学び続けるための素地を養います。日本型ウェルビーイングを視点に自尊感情や自己効力感と人とのかかわりや集団への貢献意欲を向上し、多様な他者と協働して課題を解決しようとする意欲や資質を養います。キャリア・パスポートを活用し、自ら目指す姿を設定させ、保護者や教師の価値付けにより自己のよさを自覚させ、将来への希望や社会参画への意識を醸成していきます。

「教育DXの推進」に向けて、ICTを活用し、協働的な学びと個別最適な学びの充実を図ります。タブレット端末を文房具の一つと捉え、基礎的・基本的な知識・技能の習得や、思考力・判断力・表現力等の育成と自ら計画し、振り返る調整力を養うためのツールとして活用します。教師と児童・児童同士や、地域・専門家との交流など、他者と関わりを通して多様な学びを充実していきます。

「多様性を尊重しながら共に学び、共に育つ教育の推進」に向けて、全教育活動を通して、人権尊重の精神を理解させるよう取り組みます。各教科等において人権課題を取り上げるとともに、ひまわり学級との交流を通して多様性を尊重する精神を育みます。特別活動を核として自分のよさや可能性を理解させ、自己肯定感の向上を図るとともに、他者と共に成し遂げる経験を通して他者と協働して課題解決を図る資質・能力を育てます。個別指導計画や教育支援計画に基づき、個々の実態に応じた教育の充実を図ります。ふれあい月間アンケートやQU調査等を活用し、いじめの未然防止・早期発見・早期対応や不登校の未然防止・長期欠席児童への対応を充実します。特別支援教育コーディネーターやスクールカウンセラー、特別支援教室担当者を中心に、全職員がチーム学校として組織的に支援するとともに、関係諸機関との連携を図ります。

「地域社会と協働した教育の推進」に向けて、持続可能な開発目標（SDGs）の視点から、成城三丁目緑地や近隣大学、砦の学び舎等の地域素材・地域人材を活用し、児童の主體的・対話的な活動を展開し、実践的な社会参画を促していきます。地域での活動を通して社会への働きかけから変化や改善の成就感や帰属意識をもたせます。感情的・価値的・置換的・実感的な視点から人々の営みを共感的に理解させ、地域を中心にこれからの社会への希望をもち、参画していこうとする意欲をもたせていきます。

「学校における働き方改革」の推進に向けて、「質の高い学び」と「持続可能な学校」を実現するために働き方改革の推進を図ります。「子ども主体の授業」を目指した授業改善を進め、創造的な時間の余白を確保し、教員の心身の健康増進や豊かな私生活でのインプットの充実を進め、教育の質の向上につながるサイクルを確立していきます。教員同士のミドルアップ・ミドルダウンを充実し、諸会議の精選や前例に捉われない教育活動、効果的にICTを活用した校務運営を進めます。